

《論文》

アーバンスポーツツーリズムのニーズに関する分析： Web アンケートによる調査

橋本 要・鈴木哲平・藤原健祐

1. はじめに

近年注目されているアーバンスポーツは、様々な都市型エクストリームスポーツの総称であり、東京2020夏季オリンピックでの日本人選手の活躍もあって、今後の発展が期待され、関連施設の拡充が検討されている。スポーツ庁は、2020年10月よりアーバンスポーツツーリズム研究会（2020年10月～2021年3月）を設置し、アーバンスポーツの現状及び課題を把握し、今後のツーリズムへの発展の可能性について検討が行われている。先行研究として、アーバンスポーツのスポーツツーリズムの可能性について報告したもの¹⁾や、2020年東京オリンピックにおけるアーバンスポーツとの関係性についての研究²⁾が報告されているが、アーバンスポーツツーリズムの現状や課題、アーバンスポーツのさらなる発展可能性に関する研究や、地域におけるアーバンスポーツおよびそのツーリズムニーズに関する研究はこれまでに行われていない³⁾。そこで本研究では、アーバンスポーツがツーリズムへと発展するために、その現状及び課題を明らかにすることを目的として、若者・児童を対象に、アーバンスポーツとの関わりや関心、活動状況、ツーリズムニーズなどについて、アンケート調査を実施し、アーバンスポーツツーリズムの発展可能性およびツーリズムのニーズに関する分析を行った。

2. 研究方法

2.1 調査方法

対象者および職業は主に北海道在住の小学生から社会人まで（20代から

40代程度)とし、アーバンスポーツとの関係(「現在アーバンスポーツを継続している」、「一度以上体験・経験があるが、現在継続していない」、「実際に見たことがある」、「全く見たことがない」の回答)から、「愛好者ニーズ」「観戦者ニーズ」「体験希望者のニーズ」に関する質問項目を設定し、Web(Survey Monkey社)によるアンケート調査を実施した。アンケート実施期間は2020年12月10日から2020年12月31日までとした。

2.2 分析方法

「アーバンスポーツとの関係」と「性別」、「職業」、「アーバンスポーツに関連する大会やイベントに参加したいか?」について χ^2 検定を行い、関連性について検討を行った。さらに、アーバンスポーツツーリズムへの参加意思に影響する要因を明らかにするために、「アーバンスポーツに関連する大会やイベントに参加したいか?」に対する回答を目的変数として、「性別」、「年齢」、「職業」、「アーバンスポーツとの関係性」、「関心を持っているアーバンスポーツの種類」の5項目を説明変数としたロジスティック回帰分析を行った(使用ソフトウェア:JMP Pro ver.14.0.0)。

3. 結果

3.1 属性情報

表1に性別・職業およびアーバンスポーツとの関係についての属性情報を表す。回答者は570名(男性426名、女性144名)で、現在アーバンスポーツを継続している人が279名、一度以上体験・経験があるが、現在継続していない人が88名、実際に見たことがある人(映像・メディア等も含む)が146名、全く見たことがない(知らないも含む)人が44名であった。中学生から社会人まで、幅広い年齢層からの回答を得ることが出来ており、アーバンスポーツを現在継続している社会人が163名(29.3%)と最も多く、次いでアーバンスポーツを現在継続している大学生が54名(9.7%)であった。

表 1. 性別・職業およびアーバンスポーツとの関係

	アーバンスポーツとの関係								p 値
	現在継続している		経験あるが、 現在継続して いない		実際にみた ことがある		全くみたこ とがない		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
男性	239	43%	64	11%	85	15%	28	5%	p<0.05
女性	40	7%	24	4%	61	11%	16	3%	
大学生	54	9.7%	17	3.1%	44	7.9%	19	3.4%	p<0.05
短大・専門 学校生	4	0.7%	1	0.2%	3	0.5%	1	0.2%	
高校生	15	2.7%	4	0.7%	0	0.0%	1	0.2%	
中学生	16	2.9%	4	0.7%	3	0.5%	2	0.4%	
社会人	163	29.3%	54	9.7%	81	14.5%	18	3.2%	
その他	18	3.2%	7	1.3%	15	2.7%	3	0.5%	
回答無し	9	1.6%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	

3.2 愛好者ニーズについて (図 1 ~ 4)

活動を行う上での課題（複数回答可、回答数 402 件）では「実施できる場所・専用施設が少ない（248 件、68%）」が最も多く挙げられていた。主に実施している種目としては「専用施設（161 名、35%）」「公園・広場（スケートボード利用可（144 名、31%）」となっていた。また「全国各地のアーバンスポーツパークで競技をしてみたいか?」という質問に対して、ぜひ行ってみたいと回答した人が 225 名（80.4%）と多くの割合を占めていた。具体的な施設名（複数回答可）については、「TOKYO SPORT PLAYGROUND」が 113 名（18.5%）、「ふくい健康の森スケートパーク」が 85 名（13.9%）等の施設が上位に挙がっていた。

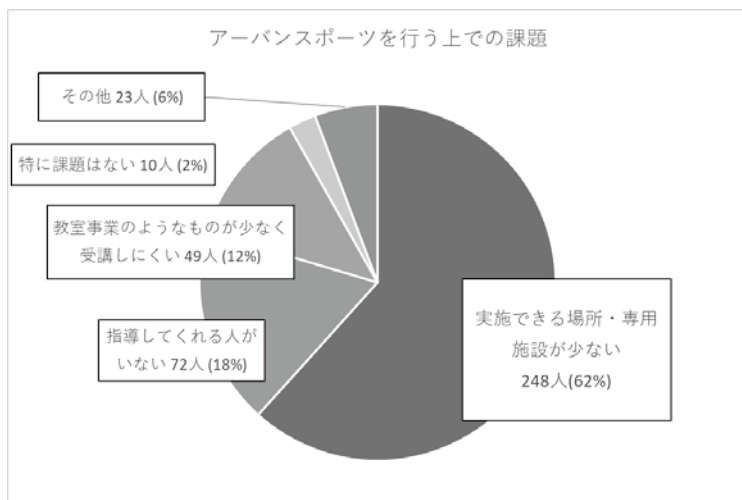


図1. アーバンスポーツを行う上での課題

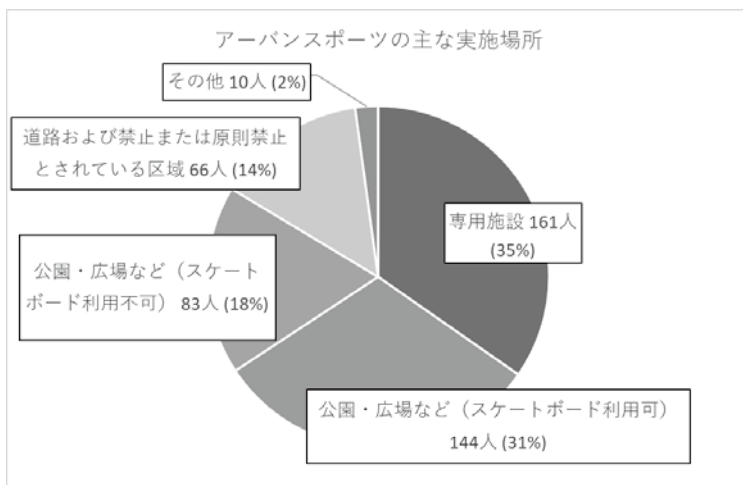


図2. アーバンスポーツの主な実施場所

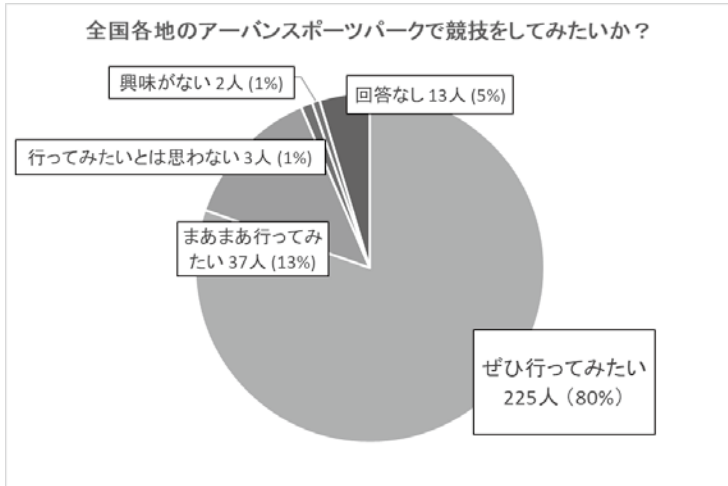


図3. 全国各地のアーバンスポーツパークでの競技ニーズ

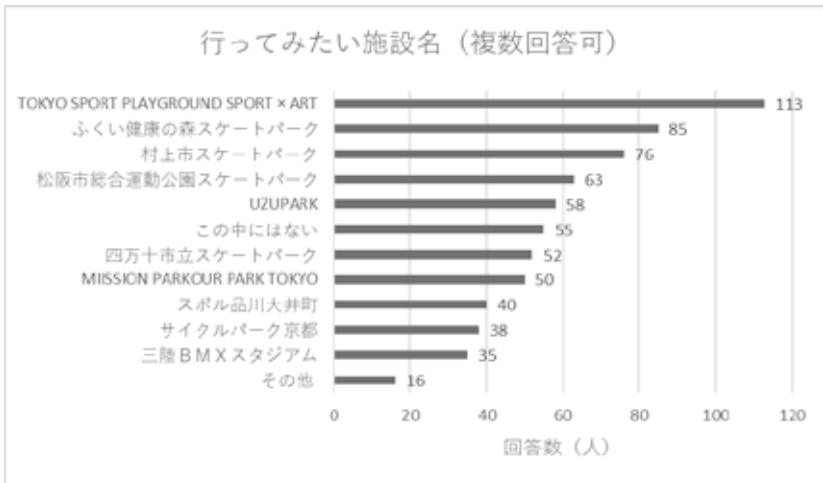


図4. 行ってみよう全国各地の施設名

3.3 観戦者ニーズについて（表2、3）

「一流の大会競技やデモを見てみたい・観戦したいといますか？」という質問に対して、「はい」と回答した人が450名（80.8%）と多くの割合を占めていた。「アーバンスポーツと音楽やダンス、異文化カルチャーなどを複合したフェスのようなイベントを見てみたいといますか？」という質問に対して、「はい」と回答した人が424名（76.1%）となっていた。

表2. 「一流の大会競技やデモを見てみたい・観戦したいといますか？」に対する回答

	アーバンスポーツとの関係								p 値
	現在継続している		経験あるが、 現在継続していない		実際にみたことがある		全くみたことがない		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
はい	239	42.9%	75	13.5%	113	20.3%	23	4.1%	p<0.05
いいえ	10	1.8%	7	1.3%	10	1.8%	5	0.9%	
回答無し	30	5.4%	6	1.1%	23	4.1%	16	2.9%	

表3. 「アーバンスポーツと音楽やダンス、異文化カルチャーなどを複合したフェスのようなイベントを見てみたいといますか？」に対する回答

	アーバンスポーツとの関係								p 値
	現在継続している		経験あるが、 現在継続していない		実際にみたことがある		全くみたことがない		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
はい	226	40.6%	69	12.4%	108	19.4%	21	3.8%	p=0.051
いいえ	21	3.8%	11	2.0%	14	2.5%	7	1.3%	
回答無し	32	5.7%	8	1.4%	24	4.3%	16	2.9%	

3.4 体験希望者ニーズについて

「一流の大会競技やデモを見てみたい・観戦したいといますか？」という質問に対して、「全くみたことがない（28名）」回答者において、「はい」

と回答した人が23名(82%)という高い結果となった。また、「アーバンスポーツと音楽やダンス、異文化カルチャーなどを複合したフェスのようなイベントを見てみたいと思いますか?」という質問に対して、「全くみたことがない(28名)」回答者においては、「はい」と回答した人が21名(75%)という結果となった。

3.5 アーバンスポーツツーリズムに影響する要因

表3における χ^2 検定の結果から、アーバンスポーツとの関係とイベント参加意思との有意な関連はみられなかった($p=0.051$)。表4に「一流の大会競技・デモの観戦」に関するロジスティック回帰分析の結果を、表5に「アーバンスポーツと音楽やダンス、異文化カルチャーなどを複合したフェスのようなイベント」に関するロジスティック回帰分析の結果を表す。「一流の大会競技・デモの観戦」については、「現在アーバンスポーツを継続している人」のみ、有意に参加確率が高くなることが示唆された($p<0.01$)。

表4. 「一流の大会競技・デモの観戦」に関するロジスティック回帰分析の結果

	項	推定値	標準誤差	p 値
性別	切片	7.34	626.42	0.99
	女性	-0.21	0.22	0.33
	10代以下	-0.65	0.52	0.21
年齢	20代	-0.47	0.35	0.18
	30代	-0.08	0.43	0.86
	その他	-4.55	626.42	0.99
職業	高校生	-5.66	626.42	0.99
	社会人	-5.62	626.42	0.99
	大学生	-5.31	626.42	0.99
	短大・専門学校生	10.60	2741.49	1.00
アーバンスポーツとの関係	一度以上体験経験があるが、現在継続していない	-0.03	0.37	0.94
	現在継続している	1.02	0.35	<0.01
	実際に見たことがある	-0.12	0.33	0.72
関心を持っている種目	1種目を回答	0.51	0.42	0.22

また、「アーバンスポーツと音楽やダンス、異文化カルチャーなどを複合したフェスのようなイベント」については、「アーバンスポーツを継続している人」「関心を持っているアーバンスポーツが2種類以上の人」のみ、有意に参加確率が高くなることが示唆された ($p < 0.05$)。

表5. 「アーバンスポーツと音楽やダンス、異文化カルチャーなどを複合したフェスのようなイベント」に関するロジスティック回帰分析の結果

	項	推定値	標準誤差	p 値
	切片	3.88	203.20	0.98
性別	女性	0.09	0.20	0.63
	10代以下	-0.07	0.46	0.87
年齢	20代	0.48	0.34	0.15
	30代	-0.37	0.38	0.32
	その他	-1.49	203.21	0.99
	高校生	-2.63	203.20	0.99
職業	社会人	-2.31	203.20	0.99
	大学生	-3.14	203.20	0.99
	短大・専門学校生	11.14	1016.02	0.99
	一度以上体験経験があるが、			
アーバンスポーツとの関係	現在継続していない	-0.03	0.30	0.93
	現在継続している	0.51	0.26	<0.05
	実際に見たことがある	0.07	0.28	0.80
関心を持っている種目	1種目を回答	0.75	0.32	<0.05

4. 考察

NPO 法人日本スケートパーク協会⁴⁾の報告によると、日本全国のスケートパーク総数は418施設で、人口比で米国より1,104施設不足していることが指摘されている。

太田ら⁵⁾はアーバンスポーツを通じたまちづくりの観点から、スケートパーク等の設置の意義及び存在は非常に大きく、県内外の交流人口増加に伴

い、その地域における公営事業等の存在周知に繋がることで付加価値が想像される可能性を指摘している。本研究におけるアンケート調査の結果から、現在アーバンスポーツ競技を継続している「愛好者ニーズ」として、全国各地のアーバンスポーツパークで競技をしたいという回答者が80.4%であったことから、アーバンスポーツ競技者におけるツーリズムニーズは高いと考えられ、そのような人々が実際に全国各地における交流を増やすことによって、その地域における様々な魅力を知り、アーバンスポーツ以外の新たな経済活動が行われることが期待される。

アーバンスポーツツーリズムは若い世代、現在においてはZ世代(Generation Z)を主な対象としての展開が期待されていることから、Z世代のツーリズムニーズに関する考え方を把握する必要がある。経済産業省によると、Z世代は1995年1月～2003年12月生まれと定義されており⁶⁾、この世代の特徴として、車や家などのモノを所有することに価値を置かず、体験等のコト消費を志向する傾向がある⁷⁾とされている。Raggiottoら⁸⁾はBMXやスケートボード、ウェイクボードのイベントにおける、アスリートと観客の平均年齢は25歳未満であることを報告していることから、本研究で得られた「一流の大会競技・デモの観戦」や「アーバンスポーツと音楽やダンス、異文化カルチャーなどを複合したフェスのようなイベント」への参加といった、アーバンスポーツに関する「コト消費」としてのZ世代におけるツーリズムニーズは、今後さらに高まることが予想される。

5. 結論

若者・児童を対象としたWebアンケート調査の結果から、アーバンスポーツのツーリズムへの展開において、アーバンスポーツを実施できる場所・専用施設の確保が重要課題であると考えられる。アーバンスポーツツーリズムのニーズについて、愛好者ニーズからは、現在のアーバンスポーツ競技者を対象とした国内スポーツツーリズムの可能性が示唆された。また、アーバンスポーツツーリズムに影響する要因分析の結果から、複数のアーバ

ンスポーツ競技に関心を持ってもらうことが重要であり、さらに、アーバンスポーツと音楽やダンス、異文化カルチャーなどを複合したフェスなようなイベント等、他ジャンルと融合した複合的イベントへの参加ニーズが存在することが考えられる。

注

- 1) 市井吉興. "「ニュースポーツ」とスポーツツーリズム: スポーツツーリズムの資源としての「ニュースポーツ」の可能性とは? (オリンピック・パラリンピック, スポーツ, ツーリズム)." 観光学評論 8.1 (2020) : 71-83.
- 2) 市井吉興. "思想のフロンティア「アーバンスポーツ」と二〇二〇東京オリンピック: 国際オリンピック委員会が期待する「スポーツの都市化」とは何か?." 唯物論研究年誌 24 (2019) : 170-182.
- 3) スポーツ庁 アーバンスポーツツーリズム研究会
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/032_index/index.html
- 4) NPO 法人日本スケートパーク協会, 日本におけるスケートパークの現状について
<https://www.jspa.or.jp/wp-content/uploads/2021/11/b54c49fb6a4a007eced71be957d2763e.pdf>
- 5) 太田幹也, 佐藤充宏. "都市公園行政におけるスケートボード専用のパークマネジメントについて." 地域科学研究 10 (2020) : 25-37.
- 6) 経済産業省 通信白書 2021
<https://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2021/>
- 7) 関根佳恵. "持続可能な社会に資する農業経営体とその多面的価値 2040 年にむけたシナリオ・プランニングの試み." 農業経済研究 92.3 (2020) : 238-252.
- 8) Raggiotto, Francesco, and Daniele Scarpi. "Generation Z Active Sports Tourism: A Conceptual Framework and Analysis of Intention to Revisit." *Generation Z Marketing and Management in Tourism and Hospitality*. Palgrave Macmillan, Cham, 2021. 281-302.